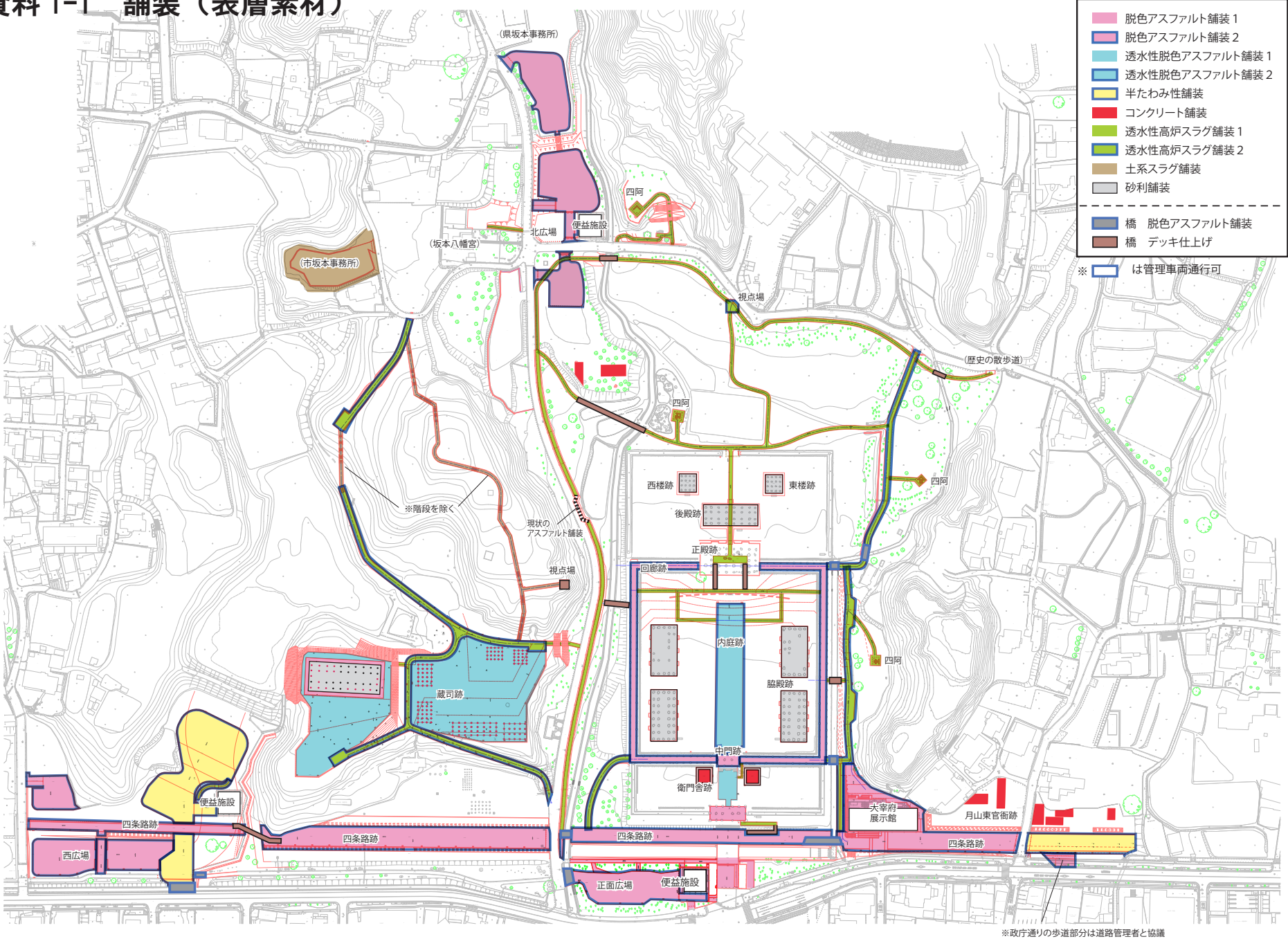
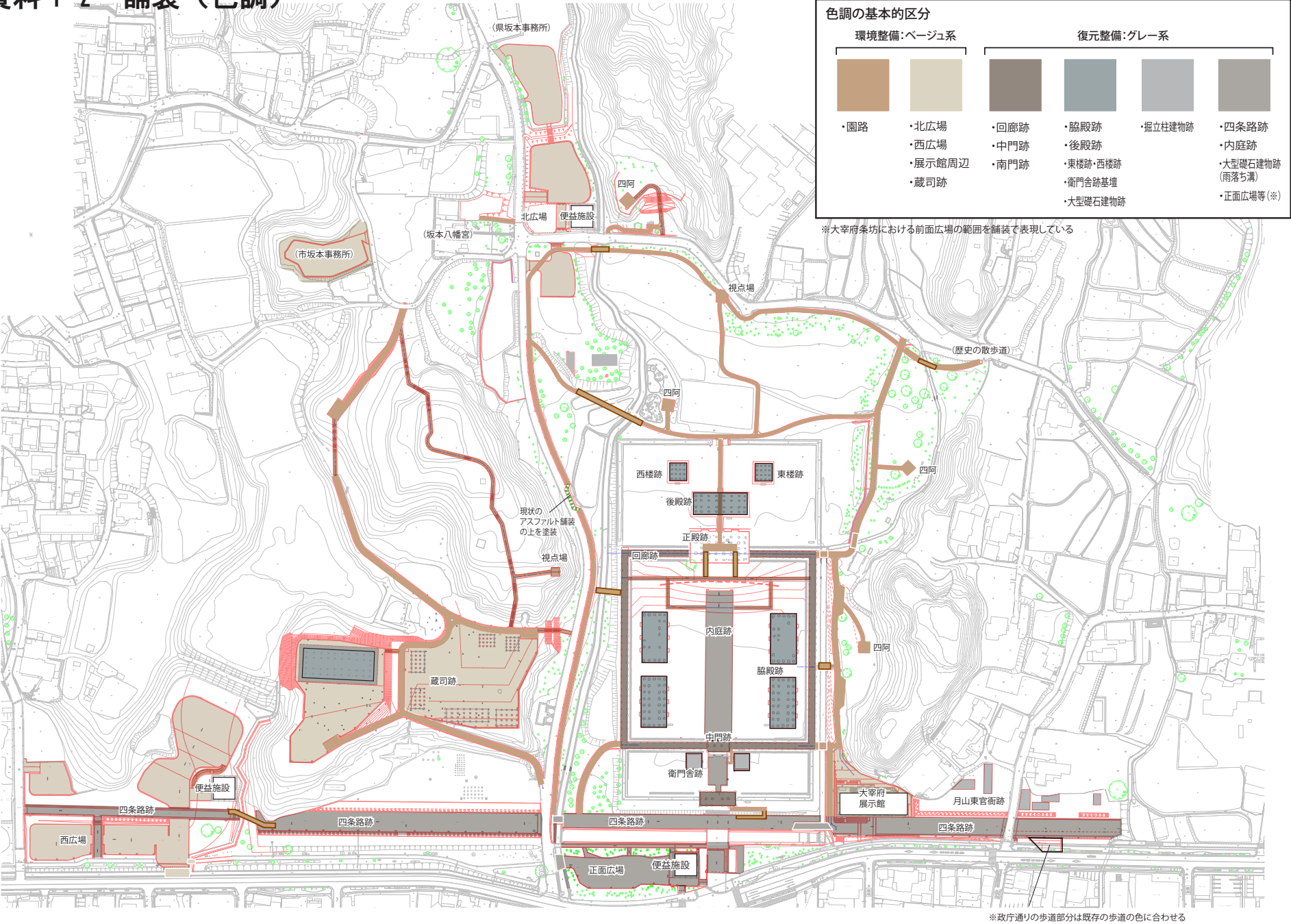


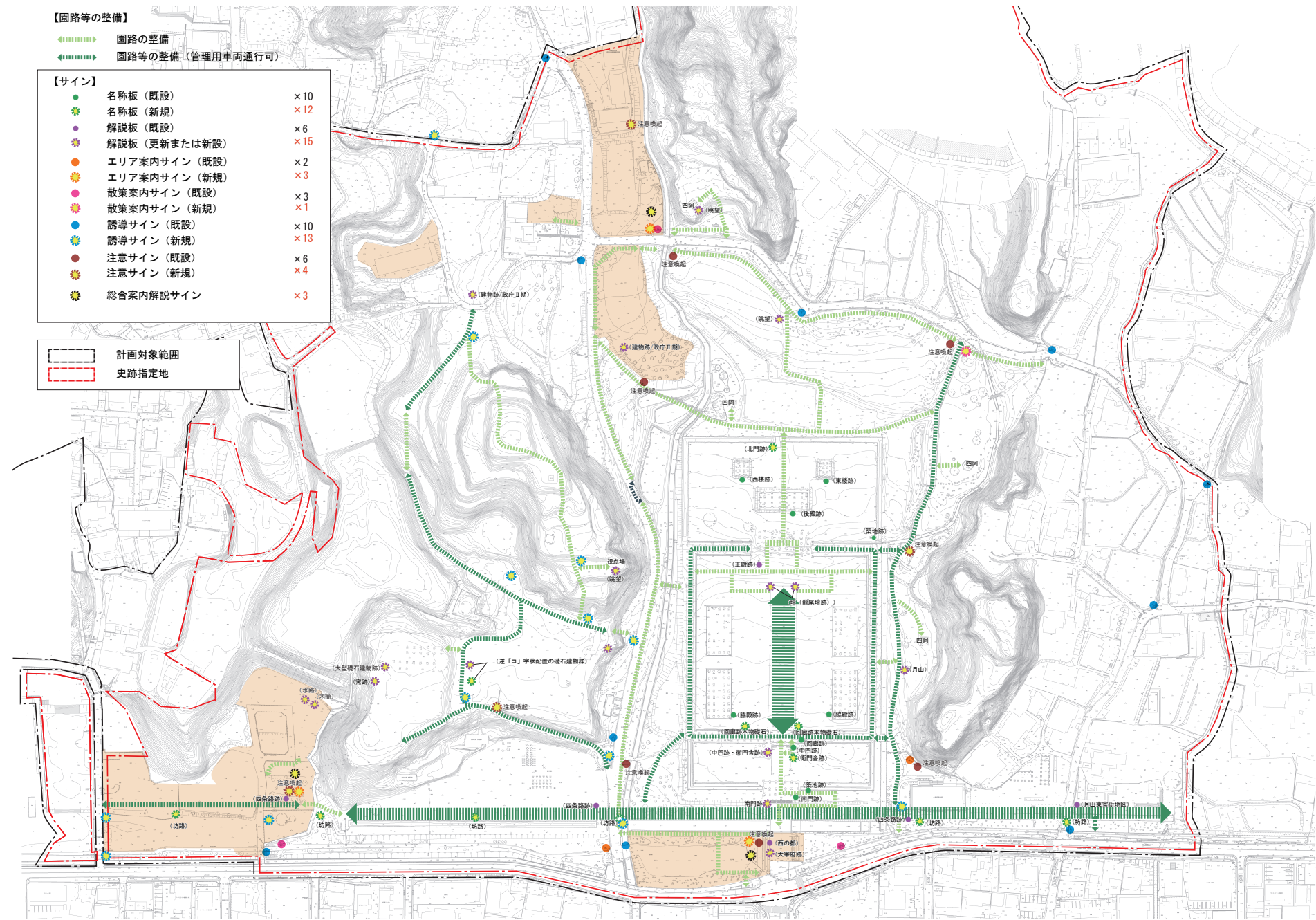
参考資料 1-1 舗装（表層素材）



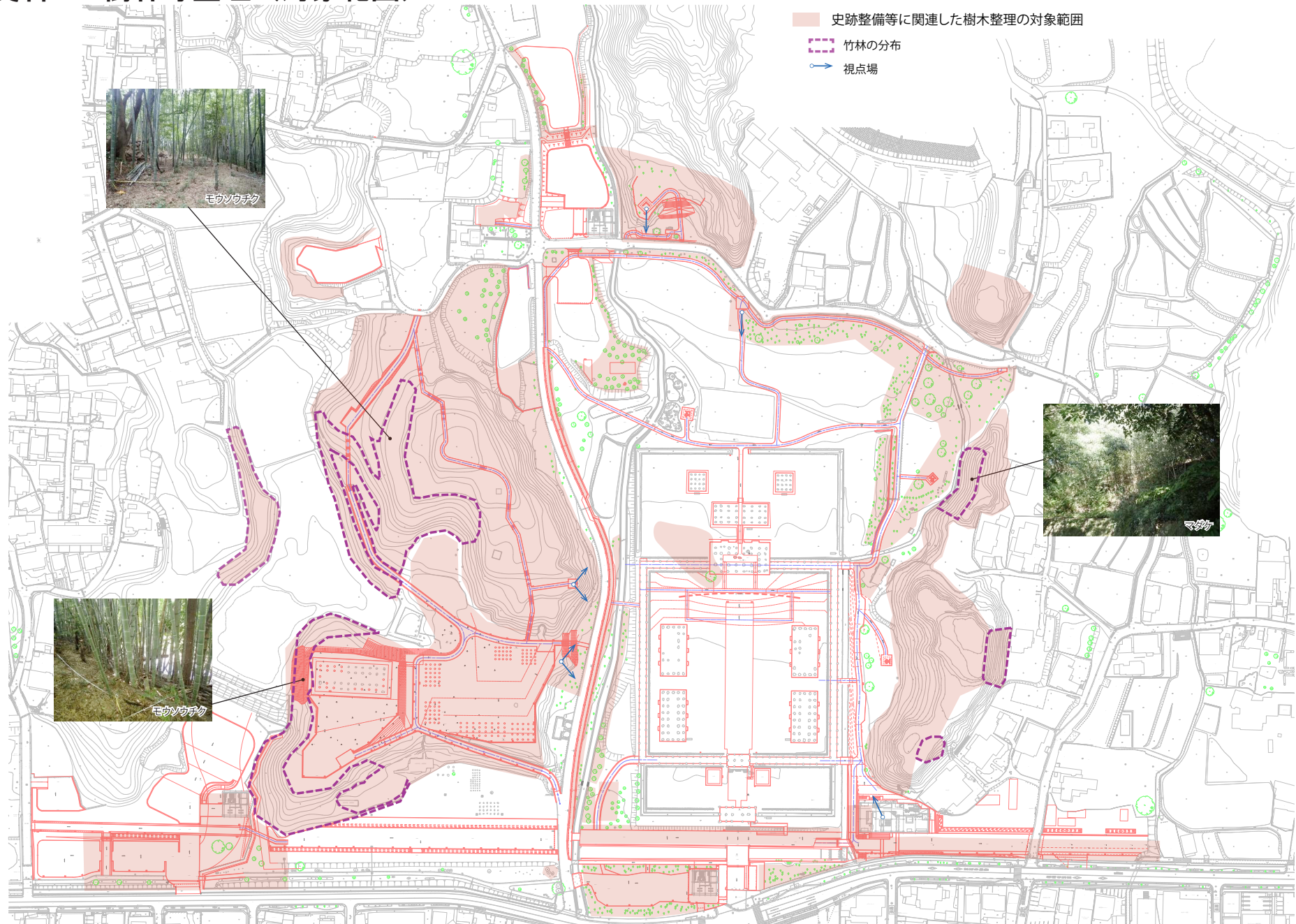
参考資料 1-2 舗装（色調）



参考資料 2 案内板（整備後設置個所）

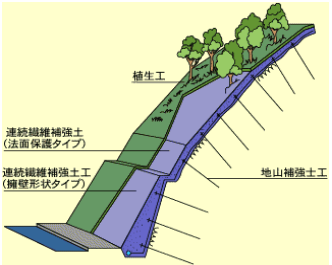
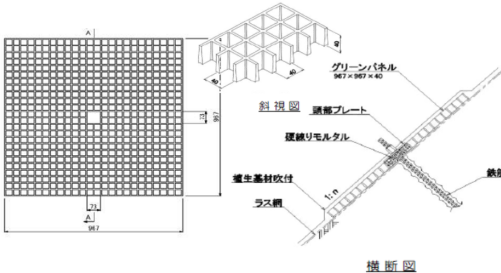
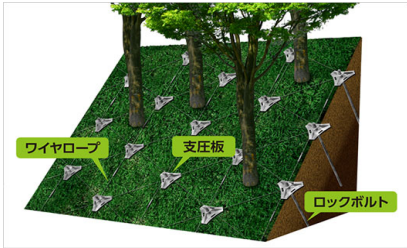


参考資料 3 樹林等整理（対象範囲）



参考資料 4-1 法面の地形復元（工法比較表 A タイプ）

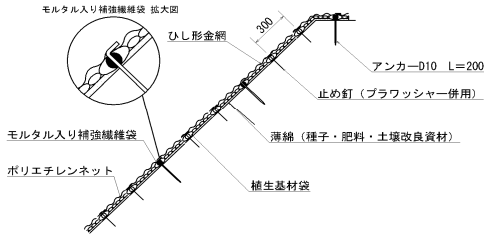
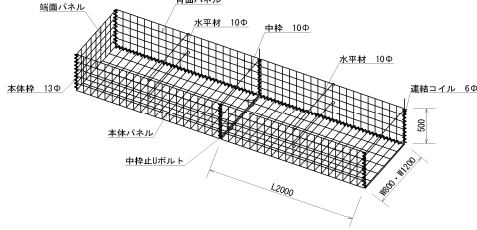
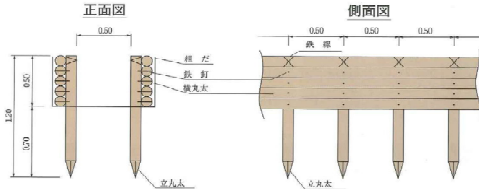
斜面整備比較表（Aタイプ：安定勾配が確保できない場合・鉄筋挿入工と併用）

番 号	1	2	3
工 法	鉄筋挿入工+連続遷移補強土工+植生工 (ジオファイバー工法など)	鉄筋挿入工+FRP製格子状パネル設置工+植生工 (グリーンパネル工法など)	鉄筋挿入工+ワイヤーロープ工+植生工 (ノンフレーム工法など)
施 工 写 真			
工 種 標 準 図			
施 工	・樹木・竹の全面伐採、およびのり面整形が必要。 ・鉄筋挿入工施工後に、砂質土と連続繊維を吹き付けて連続繊維補強土を構築する ・緑化の場合は、植生基材吹付や苗木植栽などを併用する ・圧送距離150m以内、圧送直高45m以内	・樹木・竹の全面伐採、およびのり面整形が必要。 ・鉄筋挿入工施工後に、金網張りや植生マット工を予め展開する。 ・FRP製のパネルを人力にて設置し固定する。 ・植生基材吹付または植生マット工を併用する。	・竹の全面伐採（樹木の伐採は要しない）、およびのり面整形が簡略化できる。 ・鉄筋挿入工施工後に、受圧板接地面の整形を行い、支圧板を設置固定する。 ・支圧板間をワイヤーロープにて連結する。 ・侵食や中抜け懸念がある場所では金網張りや植生マット工を併用する。 ・想定すべり面の深さが平均的に3mを超える場合は適用できない
特 長	・土留め擁壁およびのり面保護用材料として、従来のブロック積み擁壁およびコンクリートのり枠と同等の安定性を有している。 ・表面緑化が可能ため、周辺環境との調和を図ることが容易である。 ・効率的な機械化施工により、省力化および工期の短縮を図ることが可能である。	・梁の連続性はないが1本あたりの受圧面積はもっとも広く、のり面全体の安定性を図りながら全面緑化することができる。 ・FRPは、軽量・強靱・耐腐食など優れた特性がある。工場による品質管理により、安定した製品を施工できる。	・斜面を改変せずに施工するため、樹木伐採や切土・法面整形、植生工といった工程が少なくて済む。 ・鉄筋挿入工は自穿孔方式を用いることで大きな機械、足場が減り、工期を短くできる。
適用例	・主に切土法面で、侵食や風化防止、浅い表層崩落、植生工だけでは不安定な条件の法面に適用（機械施工のため比較的に広いヤードを必要とする） ・構造物の修景と植生による環境づくりを目的としている箇所に高い効果が得られる	・主に切土法面で、侵食や風化防止、浅い表層崩落、植生工だけでは不安定な条件の法面に適用 ・既存植生を残すことはできないが、全面的な緑化が可能であり、他工法より安価なため、災害後の法面復旧などの際に検討する。	・主に切土法面で、侵食や風化防止、浅い表層崩落、植生工だけでは不安定な条件の法面に適用 ・基本的に既存樹木を残して現況斜面のまま施工することができるため、史跡と緑地の保全を両立したい場合に検討する

注1) 実施設計前にボーリングによる地質調査を実施してから工法を決定すること
植生基材を用いる場合、種子は現地に応じた種類のものを用いることとし、外来種のみを配合とせず必ず在来種を取り入れた配合とする。但し、ウィーピングラブグラスに関しては使用しない。
また、他のイネ科の植物に関しても緑化目的を達成し得る範囲内において、可能な限り、草丈の低いもの、繁殖力の小さいもの、種子生産量が小さいものを使用する。

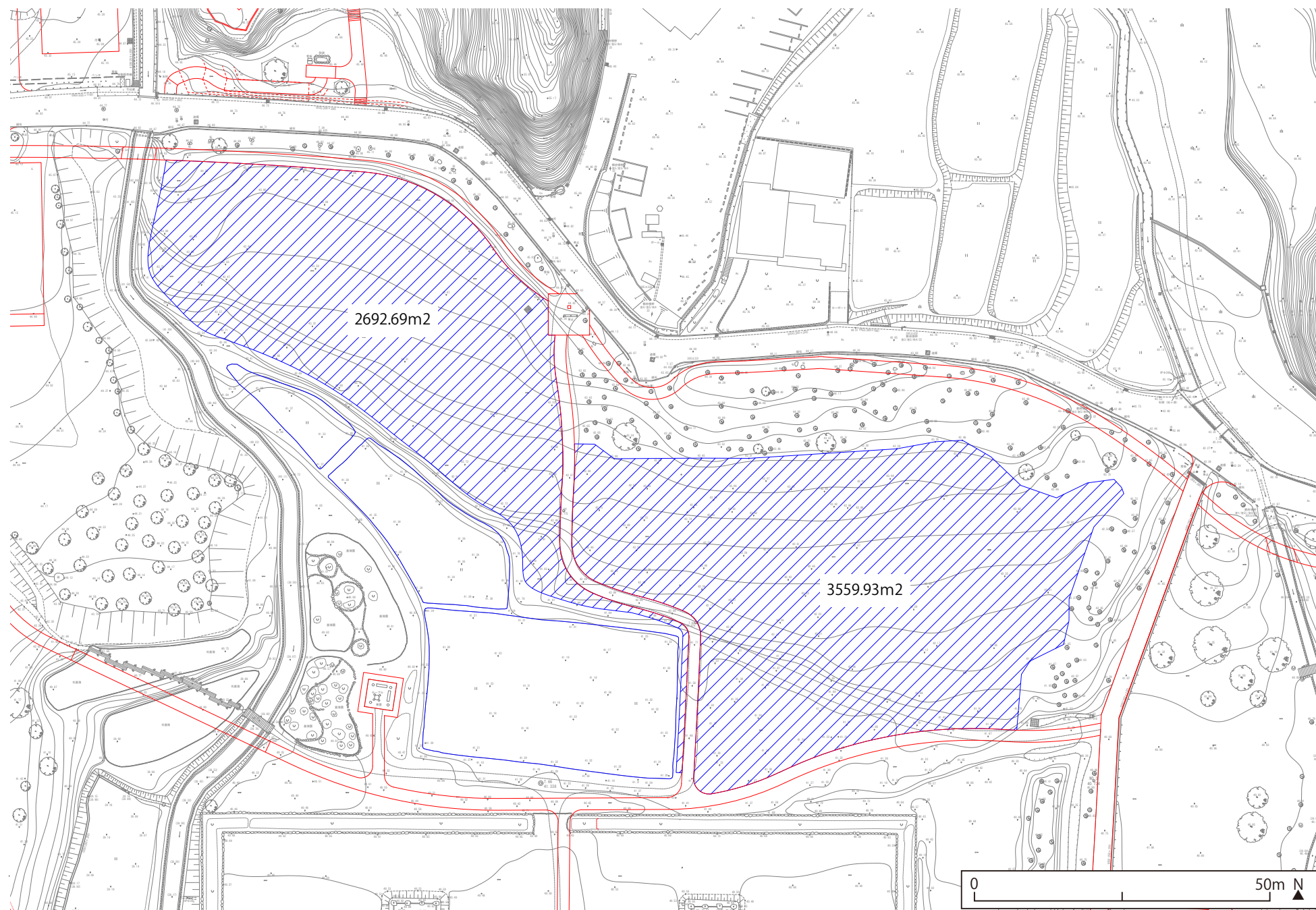
参考資料 4-2 法面の地形復元（工法比較表 B タイプ）

斜面整備比較表（Bタイプ：安定勾配が確保できる場合）

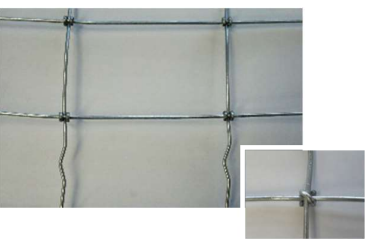
番 号	1	2	3
工 法	緑化基礎工(ネット張工)+植生工(植生マット工)	緑化基礎工(かご工)または植生工(植生土のう工)	緑化基礎工(伐採材を活用した柵工)
施 工 写 真			
工 種 標 準 図			
施 工	・のり面清掃: のり面の雑草木・浮石・浮土砂を除去する。 ・マット展開: 白い薄綿側を地山側にして、法肩を20cm程度巻込み、横方向の重ね幅は3cm程度とり、のり面へ密着するよう展開する。 ・マットの固定: 所定の位置にアンカー・止め釘を打ち込み、マットを地山に密着させる。 ・人力施工が可能	・位置出し後に不陸整正し、かご枠を配置する。 ・中詰材を充填して上部かご枠を組立・連結し、背面の埋め戻しを行う ・かご枠工の施工はバックホウなどの重機が必要となるが、植生土のうは人力施工が可能である。	・竹林の伐採と柵工は同時並行で進める。 ・生きている竹を杭の代わりにするため、同じ高さにあるものを一部残す。 ・残した竹を活用し、枝葉を落とした棹をコンタに沿って積み上げる。 ・枝葉も積み上げた棹の後ろに入れ込む。 ・余った竹は場外処分する。
特 長	・植生マットに備えたモルタル袋により等高線状の小段で耐侵食性を高めたのり面緑化工である。 ・従来の植生基材吹付工では強雨時に吹付基材が流亡する問題があったが、本技術ではモルタル袋により表面流の速度を減殺し、表面侵食を低減させ早期の緑化が可能となる。	・施工が簡単なので、工期短縮が計れる ・内張シートを併用することで現地発生土が利用できる ・中詰材に土砂を使用した場合、植生シートによる緑化が可能 ・背面からの水を通すため排水性に優れる	・竹伐採時に伐竹を活用して簡易な土留めの柵を設置する。 ・竹の搬出、処分量を減らすことができる。 ・竹材の緩やかな分解とともに地表面が植生に覆われることで斜面が徐々に安定する。
適用例	・人力施工が可能であり、地形に沿って設置できるので適用範囲が広い	・かご枠工は、排水に懸念があるのり面の保護や応急的対策に有効 ・土のうは、人力施工しかできない小規模なのり面の保護などに有効	・蔵司周辺の竹林の伐採とのり面保護に適用することができる。

注1) 植生基材を用いる場合、種子は現地に応じた種類のものを用いることとし、外来種のみを配合とせず必ず在来種を取り入れた配合とする。但し、ウィーピングラブグラスに関しては使用しない。
また、他のイネ科の植物に関しても緑化目的を達成し得る範囲内において、可能な限り、草丈の低いもの、繁殖力の小さいもの、種子生産量が小さいものを使用する。

参考資料 5-1 獣害対策（対象範囲）



参考資料 5-2 獣害対策（工法比較表）

種類	金網（鋼製）ネット	特殊ジオテキスタイル	金網付き植生マット	芝生保護材
全体写真				
接写				
工法概要	下地土壤に適用できる植生工を実施した上に、イノシシ対策用の特殊金網のネットを敷設し、ピンで固定する工法。	特殊ジオテキスタイルと芝生を一体化させたシートを連結ピンで接続し、外周部を見切り材等で固定する工法。	ヤシ繊維ネットに等間隔に肥料袋が装着され、裏側の薄綿には種子・肥料等が接着されている。表面には亀甲金網が付けられており、ヤシ繊維ネットとの多層構造になっているマットを止め具で打設固定する工法。	芝等植生工を実施した上に、芝生保護材を敷設し、専用ピンで固定したのち、目土を覆土する工法。
材質（植生部除く）	4種亜鉛メッキ鉄線 交点特殊加工（φ2.0mm 4種亜鉛メッキ）	基布：ポリエステル系 被覆材：アクリル系硬化樹脂	ヤシ繊維ネット＋亀甲金網（φ0.8mm 亜鉛メッキ鉄線）	低密度ポリエチレン＋酸化防止剤＋UVコーティング
製品規格	幅2m 長さ15m	幅1.05m 長さ3.0m	幅1m 長さ10m	幅1m（2m） 長さ5m
目的	目づレしない特殊加工を施した金網を敷設することで、イノシシが掘り起こしの際に金網が邪魔をして嫌がる。	特殊ジオテキスタイルに芝生を絡めて一体化させているため、イノシシが掘り起こしに来た際に芝の下にあるジオテキスタイルに当たり、それが邪魔をして嫌がる。	かまくらマット肥料袋付を敷設すると、表面に亀甲金網があるため、イノシシが掘り起こしに来た際に嫌がる。	芝生の保護材ではあるが、表面が突起した形状になっているため、イノシシの掘り起こしの際に嫌がる。
施工性	植生工の上に、金網をピンで固定するだけの簡単な施工である。	整地した土壌のうえに、シートの下地にある特殊ジオテキスタイルを専用止めピンで連結するように固定する。また、外周は筋掘りをして見切り材などで連結したシートを固定する。	多層構造一体型のマットを止め具で固定する簡単な施工である。	整地した土壌のうえに、生芝（野芝等）を張付け、その上に保護材を敷設し専用ピンで固定する。更に目土を覆土する必要がある。
景観性	細い鉄線を使用しており、網目も大きい（75×125）ので、ほとんど目立たない。	芝生の下にジオテキスタイルがあるので、ほとんど見えない。	芝生などが育つまではヤシ繊維ネットが目立つ。ただし、自然素材であるので周囲に馴染む。	芝生の上に敷設するため、芝生が育つまでは、保護材が目立つ。
耐久性（耐用年数）	15年	20年	5年（亀甲金網）	20年
経済性（直接工事費）	概算直工費 約3,000円/㎡	概算直工費 約7,000円/㎡	概算直工費 約4,000円/㎡	概算直工費 約8,500円/㎡
利便性	人の立ち入り可能（金網に注意が必要）	人の立ち入り自由	人の立ち入り可能（法面以外・金網に注意が必要）	人の立ち入り可能（芝生の育成次第で保護材がむき出しに）
維持管理	草刈りの際は高刈りが必要	草刈りの際は高刈りは不要だが、注意が必要	草刈りの際は高刈りが必要	草刈りの際は高刈りは不要だが、注意が必要
総合評価	×	○	×	×

※耐用年数はメーカーヒアリングの上、「公園施設長寿命化計画策定指針（案）参考資料集 平成24年4月 国土交通省」の「主な公園施設と処分制限期間の採用値（参考）」を加味しています。この計画では処分制限期間に係数を乗じて使用見込期間とします。